



Usefulness of three-dimensional angiographic analysis of perigastric vessels before laparoscopic gastrectomy

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯野, 一郎太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003409

論文審査の結果の要旨

腹腔鏡下胃切除術は開腹手術と比較して侵襲が少ないが、安全に施行するためには個々の患者において胃周囲の血管の変異を術前に十分理解しておくことが必要である。最近、多列 CT を用いて容易に血管解剖が把握できるようになり、より安全に腹腔鏡下胃切除術が可能となってきた。

申請者らは 64 列 CT を用い、胃周囲の血管解剖、とくにこれまでの手法で解析困難であった右胃動脈の分岐形態について詳細に検討した。対象は当院で胃切除術が施行された 100 例で、造影剤を急速静注した後、早期動脈相、後期動脈相、早期静脈相、後期静脈相の CT を撮影し、医用画像処理ワークステーションで三次元血管再構成画像を作成した。腹腔動脈の分岐形態、左胃静脈の合流部位および周囲動脈との位置関係、左右肝動脈の分岐形態を解析し、右胃動脈の分岐については胃十二指腸動脈の根部を分岐点とする新たな分類を提唱した。これによると右胃動脈が同定された 77 例のうち、右胃動脈が分岐点より遠位から分岐するタイプが 53 例、分岐点より尾側の胃十二指腸動脈から分岐するタイプが 13 例、分岐部を含めた総肝動脈から分岐するタイプが 11 例であった。右胃動脈の処理手順は分岐形態により異なるが、この分類は腹腔鏡下胃切除術を安全に行う上で有用な分類であると考えられた。

申請者らの研究は、多列 CT を用いることにより従来の手法では困難であった右胃動脈の同定が比較的容易に行えることを示し、腹腔鏡下胃切除術の安全性を高める優れた研究であると審査委員会では高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	阪原 晴海
	副査	椎谷 紀彦
		副査 金山 尚裕